

吉本新喜劇の桑原和男師匠が旅立たれました。新喜劇創成期から活躍された師匠からのお褒めの言葉は若手にとって飛び上がるくらいうれしく貴重なものです。師匠は常に新喜劇全体を考え、劇団員の良いところを見つけては「すごいな」とサラリと褒めるすてきな方でした。

当時の私は身体を使った演技をしていました。殴られてもいないのに高く遠くに飛ばされるネタや殺陣のシーンをうまく演じることが出来た時は、褒めていただきました。

④ 桑原和男師匠



## 人を傷つけぬ愛ある育成術を継承

私の最後の舞台でも大きな思



した。本番中の舞台上でも「すごい迫力」「お客さん驚いてるで」と大声でお伝えいたこともあり、大きな自信になりました。また、舞台の合間に楽屋で何度か将棋をしながらお話しさせていただいた時間は忘れられない貴重な思い出です。

い出があります。舞台前に引退の報告をすると「昔は辞める芸人の思い出に最後は大きな役をあげてたんや」「久しぶりにやるか」と桑原師匠と池乃めだか師匠の会話が始まり、そこからが大変…。

その会話の通りに引退する私が先輩と入れ替わり、大きな役で最後の舞台に立つことには!? 急遽セリフを覚え、サイズの合わない衣装は、舞台を見に来てくれた同期芸人の私服を借りるなど大

忙し。いよいよ最後の舞台。責任ある大役、引退をかみしめる余裕もなく覚えたセリフを話すことに必死。しかし、桑原師匠は「この子、辞めるんですよ」と台本にないセリフを言い始めます。「?」となる客席。他の先輩も加わり何度も「この子、辞めるんです」を繰り返すうちに、お客さんに本当に引退することが伝わります。

その後も、私がセリフを言う度

に「辞めるのにな」と師匠が付け加えると笑いが生まれます。新喜劇はキャラクターがあると笑いをとりやすくなります。個性がなかった私でしたが、その日だけ限定の「今日で辞める芸人」というキャラクターとしてたくさん笑いをいただきました。最後の最後に大暴れるシーンで勢い余って舞台セットに穴を空けてしまうミスをしました。師匠が間髪入れず「辞めるからってむちゃくちゃしたな」と一言。客席は大爆笑、そのまま師匠の誘導により、お客さんの大きな拍手とともに最後の舞台を終え、これ以上ない幸せな気持ちで引退することができました。

人を傷つけないエデュテイメントの根幹には桑原師匠の愛のある若手育成術と笑いの教えがあります。お笑いの世界は引退しましたが、現在の私のフィールドである教育の世界で師匠の教えを継承していくことが私の使命と考えています。「師匠！後輩たちをいつばい褒めて育て、すてきなアイデアで人を笑顔にし、幸せにします!」。心よりご冥福をお祈りします。

